

テレビ型電子黒板の導入について

現行の電子黒板機能付プロジェクターが令和9年11月30日までの賃貸借期限となっていることから、令和9年12月1日からテレビ型電子黒板を全普通教室、特別教室及び体育館に配備します。

1 電子黒板の現状

現在、普通教室等に導入している電子黒板機能付プロジェクターは、令和4年6月の学校情報化推進会議で導入を決定し、デジタルスライド機能がついた天吊り型のプロジェクターを配備していますが、以下の課題が学校等から挙げられています。

(1) 性能・機能上の課題

現在導入している天吊り型の電子黒板機能付プロジェクターは、日当たり等の教室環境によっては、見えづらい場合があるといった声があります。また、黒板に直接投影することから、授業の終盤には板書との併用ができないという課題があります。

(2) 設置上の課題

天吊り型の電子黒板機能付プロジェクターは、教室増の際には教室の壁面に穴をあけて設置工事をする必要がありますが、校舎によっては、壁材等にアスベスト含有建材が使用されている可能性があります。そのため、特に平成18年9月1日以前に着工した学校施設については、壁面へのアンカー固定工事等を行う際に、事前にアスベスト含有の有無を確認する必要があるほか、港区建築物の解体工事等の事前周知等に関する要綱に基づき、周辺への事前説明を行う必要があり、年度当初の学級数増等に伴う設置要望があった際にも、配備までに1か月から2か月の時間がかかり、年度当初には配備できていない状況です。

(3) 設置教室に関する課題

全ての特別教室（音楽室・図工室・家庭科室・理科室・国際室・算数少人数指導教室等）に電子黒板が設置されておらず、GIGAスクール構想で一人一台端末が実現し、ICT機器利活用が日常化した現在、各学校から全ての特別教室への設置要望が寄せられています。

2 各校教員へのヒアリング及び全教員向けアンケートの結果

電子黒板の現状を踏まえ、令和9年度以降の電子黒板の方向性について各校のICT担当教員からのヒアリング、全教員向けのアンケートを行い、改めてどのような電子黒板が学校現場に適しているかの調査を行いました。

(1) 各教員のヒアリングの結果

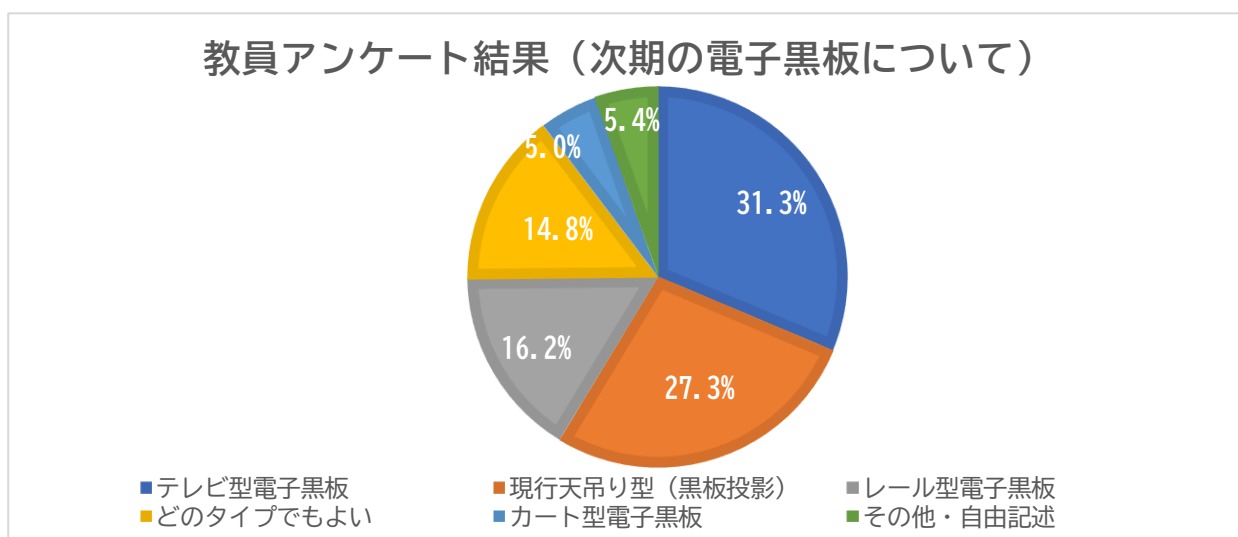
令和8年5月14日（木）に学校のICT担当教員を対象にした「GIGAリーダ

一研修会」の中で次期の電子黒板についてのヒアリングを実施しました。ヒアリングの中で、特別教室についてはテレビ型電子黒板機能付プロジェクターを導入することが望ましいと多くの教員が回答しました。

(2) 全教員向けアンケートの結果

令和8年6月1日（月）から同年7月2日（木）まで全教員を対象とした次期の電子黒板についてのアンケート調査を実施しました。回答者は約600名で「今の電子黒板が使いやすいかどうか」、「次期の電子黒板はどのようなものを希望するか」などの質問をしています。全教員向けアンケートの結果、「今の電子黒板が使いやすい、まあまあ使いやすい」と回答した教員は333名（55.5%）、「今の電子黒板が使いにくい、まあまあ使いにくい」と回答した教員は267名（44.5%）と現在の電子黒板を肯定する意見もあるものの、否定的な意見も4割を超えています。

また、次期の電子黒板については、テレビ型の電子黒板を導入してほしいという割合が188名（31.3%）と現行の天吊り型の電子黒板機能付プロジェクターの割合の164名（27.3%）を上回りました。また、自由記述を確認したところ、意見として多く見られたのは「黒板を十分に使えること」、「画面が鮮明であること」、「すぐ使えること」との回答がありました。



3 見直しの方向性

教育委員会では、テレビ型の電子黒板は移動が簡単で、工事が不要であり、年度当初の追加配備も容易であることや、教員へのヒアリングとアンケート調査、教育情報参事官の意見を踏まえて、令和9年12月から全ての普通教室及び特別教室、体育館（計：約900教室）にテレビ型電子黒板を導入します。

調達方法は賃貸借契約（リース）とし、契約期間は5年間（令和9年12月1日から令和14年11月30日）を予定しています。

4 テレビ型電子黒板候補製品の選定

(1) 導入予定の候補製品案

導入予定の製品は、サツキ株式会社「ミライタッチ」です。

導入において評価された点は、以下のとおりです。

- ・足幅が狭く、教室内外の移動がスムーズに行えながら、転倒防止のストッパーや補助足が装備されており、可動性能と安全性能が両立していること。
- ・高輝度パネルにより、日当たり等の教室環境でも教材を視認しやすいこと。
- ・上部にスピーカーがついており、教室の隅まで音がしっかりと届くこと。
- ・手で消すことが可能といった従来の黒板に近い操作が可能であること。
- ・ミラーリングが30画面对応可能であり、授業内での考えの共有が素早くできること。
- ・インターネット接続時に、その場で検索や画像の貼り付けができること。
- ・実物投影機が内蔵されており接続の手間がないこと。
- ・Google ClassroomやGoogleドライブの教材を電子黒板単体で直接開くことが可能であり、授業運営がしやすいこと。

(2) 候補製品の選定の経過

テレビ型電子黒板について6社から提案を受け、音の反響具合、画面の輝度、保守対応、他自治体の導入実績等を評価し、そのうちサツキ株式会社の「ミライタッチ」を令和8年7月1日（水）から同月17日（金）まで学校でのモデル導入を行ったほか、同月27日（月）に実施した「MINATO GIGA×FESTA」で展示し、教員からの意見も十分に聴取した結果、本製品を選定することとしました。

また、令和8年8月21日（金）に開催した学校情報化推進会議において、本件について審議を行いました。委員からは、「教室内の設置場所に指定はあるのか」「導入時のガイドラインは整備されているのか」といった質問がありました。これに対し、教室内で一律に設置場所を指定するのではなく、各校の意見を踏まえながら適切な場所を決定すること、導入に当たっては研修で実機を紹介するとともに、教員向けマニュアルを作成し各校へ周知することを説明しました。その結果、導入について了承を得ています。

5 テレビ型電子黒板の事業規模（概算）

- 導入（初年度） 74,195千円
- （内訳）設定費用 8,195千円
- 賃貸借費用 66,000千円（令和8年12月1日～令和9年3月31日）
- 運用（次年度以降）198,000千円（1年間の賃貸借費用）

6 今後のスケジュール

- 令和9年11月 順次入替作業
- 12月1日 賃貸借契約開始

